



**多気町 地域資源・磁場予備調査報告書
(概要版)**

**令和6（2024）年8月1日
多気町・VISON合同チーム**

検討概要

背景・問題意識

本検討は、町および町の主要な観光拠点であるVISIONとの合同検討チームで多気町全体の観光資源の価値に対する共通認識の醸成を目的として、2023年8月～2024年3月にかけて以下の観点で研究・検討を行った。

〈基本認識〉

多気町の価値の向上に向けて、① 中央構造線が走る町 ② 古代まで遡る豊かな歴史資源という特異性を活かすことが重要

〈着目点〉

①町・VISIONは中央構造線上に存在し、伊勢神宮からも近く、国内では他にも有力な神社が中央構造線上に存在する。

②特異な「磁場」の存在について示唆があり、VISION敷地内に限らず中央構造線・丹生など多気町の地域資源についても可能な限り客観的な裏付けのある調査を行い、地域全体の価値を高めることで、地元の方々が誇りを持ち、居住・観光双方で魅力ある土地となることを目指す。

成果の活用案

■ 共通

地域資源を観光名所（中央構造線、熊野古道、丹生神社、水銀坑等）として紹介することで、滞在地としての魅力を高め、来訪者の満足度を高める

■ 多気町

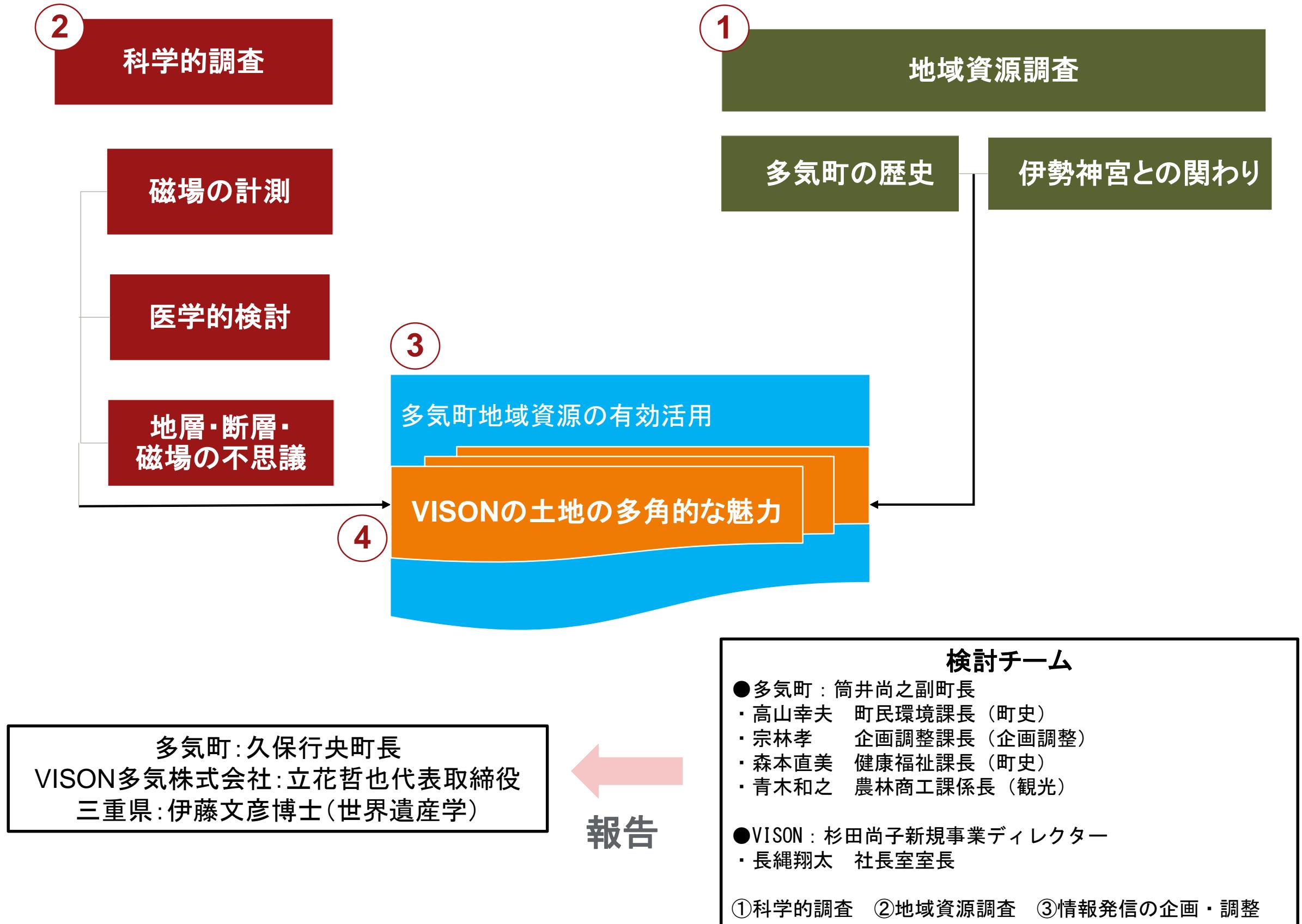
町民の誇り、教育的観点、観光及び地域振興としての町の資産

■ VISON

科学的・医学的根拠を踏まえた施設検討への活用

■ 最終報告概要版は基礎調査として公開を行うと共に、チームとしての提言を行う

検討枠組み・検討体制



報告書骨子

I. 検討テーマ案：歴史（中央構造線の走るまち 多気町）

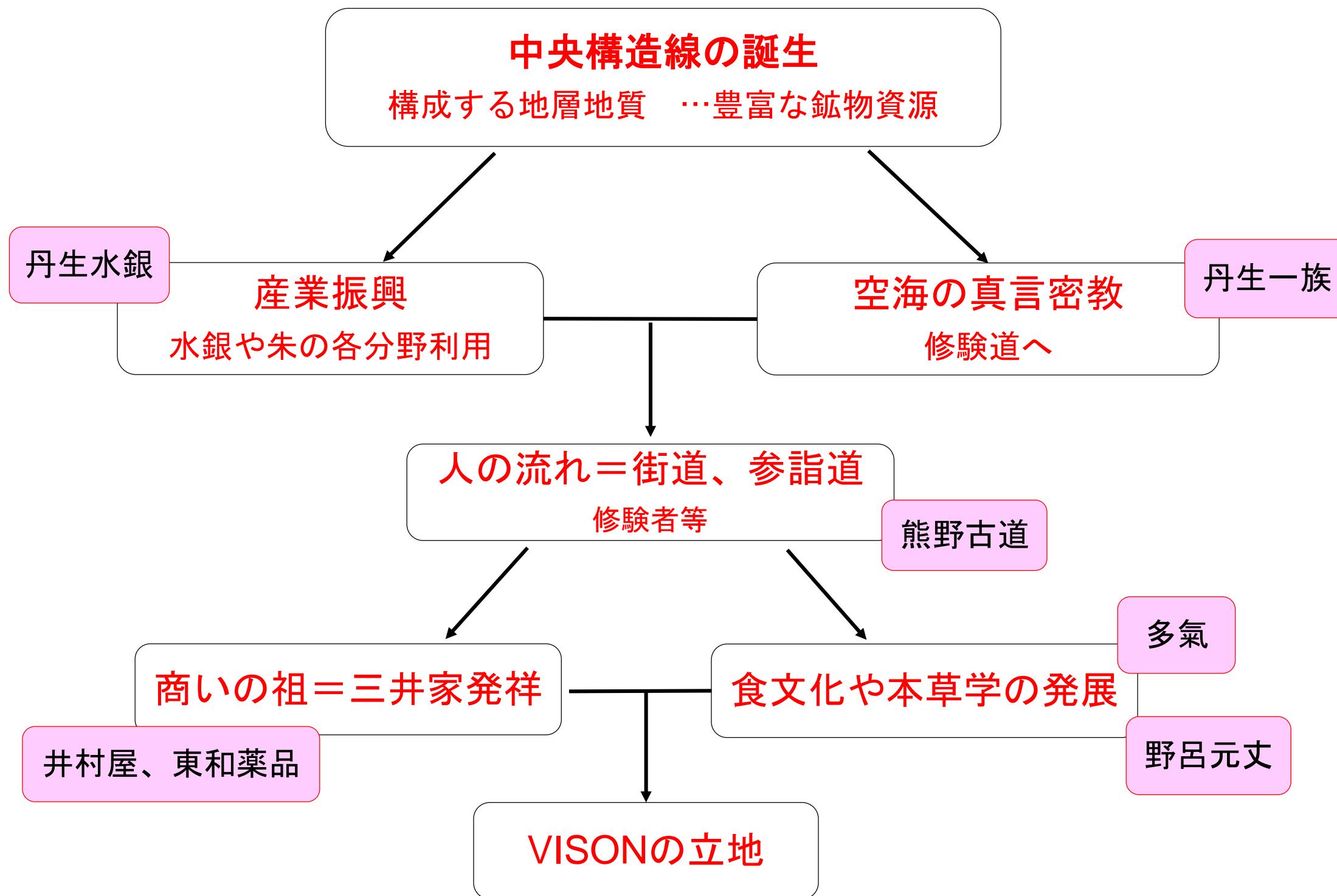
- 丹生水銀～丹生一族～高野山との繋がり
- 中央構造線と多気町内の街道（熊野街道：伊勢神宮と熊野参詣へのつながり）
- 命をはぐくむ「氣」が多い町
- 商工業発祥の地（三井家のルーツ～数々の創業者輩出）

II. 検討テーマ案：地質・科学

- 科学
- 山岳信仰・民俗学
- 人体と磁力

III. 今後に向けて（最終提言）

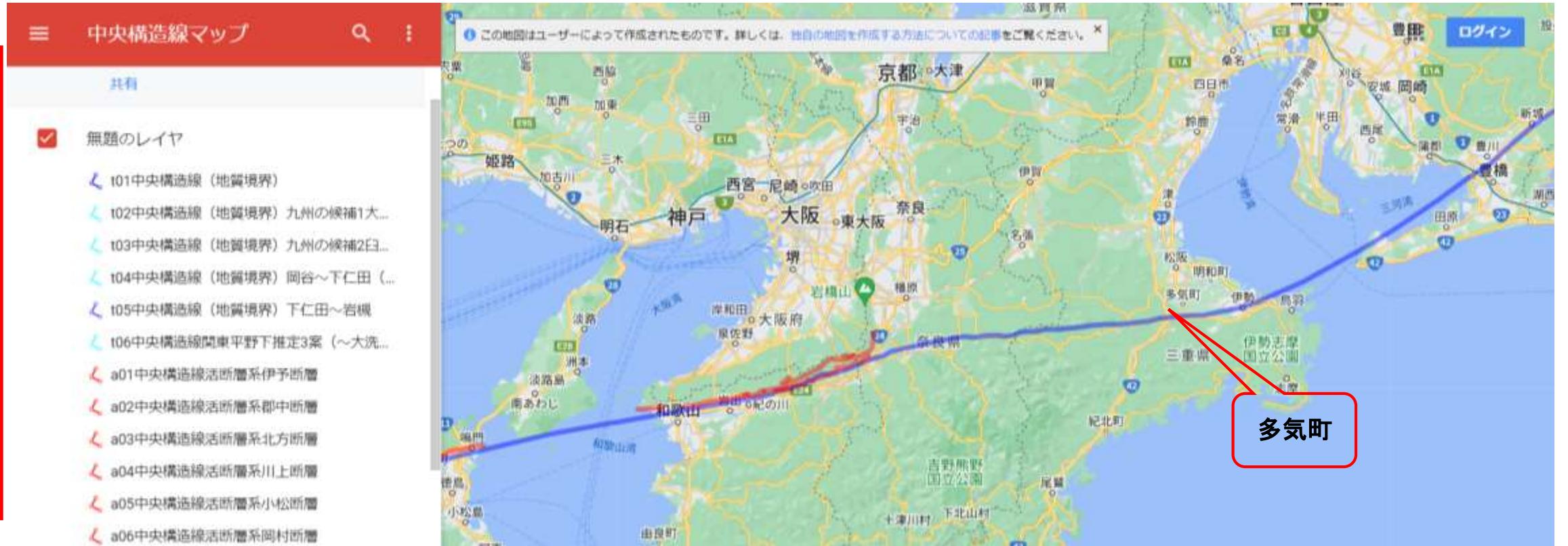
【歴史・文化の流れ】



I. 検討テーマ：歴史（中央構造線の走るまち ～多気町）

大鹿村中央構造線博物館HPより <https://mtl-muse.com/mtl/aboutmtl/whereismtl/>

中央構造線マップ



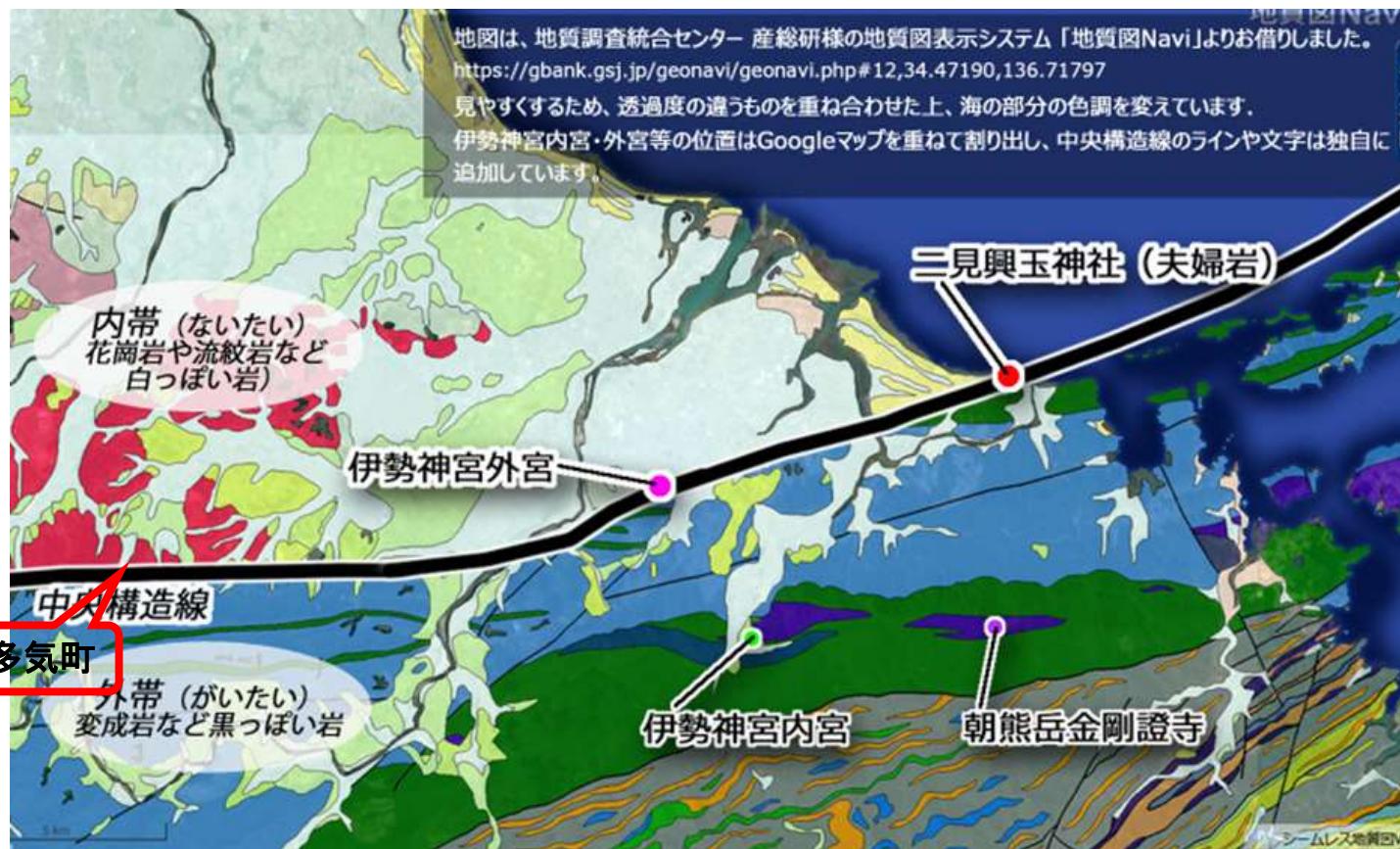
熊野古道伊勢路



1. 検討テーマ：歴史（中央構造線の走るまち ～多気町）

はるか太古、地球のプレート移動によって生じたと言われ、今もなお活動を続けている日本の大断層。関東・中部・紀伊半島・四国・九州と縦貫するわが国最長の谷であり、宇宙からもくっきり見えるほど深い溝を刻んでいる。さらに、糸魚川—静岡構造線、御荷鉾（みかぶ）構造線などをつなぐと、ほぼ山茶の分布と重複し、木地師や修験者が往来した道筋とも重なる。さらに、このルートは、丹生（水銀や朱の原料）の道でもありとされる。

伊勢志摩周辺には、「浅間さん」と人々から親しみを込めて呼ばれる民間信仰がある。富士山麓にある「富士山本宮浅間大社」の名前から分かるように、「浅間さん」の「浅間」（せんげん）とは「富士山」を意味する。つまり浅間さんとは、秀峰富士を敬う信仰である。**断層と、伊勢神宮とその関係の有力神社仏閣、加えて浅間さんの位置関係が一致していることは、それらが連携しながら、周辺地域を地鎮していることを示している。**



■丹生水銀～丹生一族～高野山との繋がり

1. 古代の朱

辰砂

辰砂（しんしゃ）は顔料や防腐剤、水銀の原料として、世界中で古くから利用されてきた。丹生地域の水銀鉱床は、新生代第三紀中新世（約1700万年前）の中央構造線に沿う酸性岩の貫入か、その後に生成されたと考えられる網状鉱脈鉱床（熱水性鉱床）である。

歴史

丹生地域の辰砂や水銀の歴史は、縄文後期までさかのぼる。「続日本紀」には698(文武天皇2)年に伊勢など五国から朱砂が献上され、713(和銅6)年に伊勢国が貢納する調（中央に納める税）を水銀とすることが記録されている。平安時代の丹生水銀採掘の様子や、伊勢と都を往来して水銀を商う富商に関する説話が「今昔物語集」に収録されている。

中世に入ると、南北朝時代、南朝方の伊勢の北畠氏は、現在の松阪市で南朝を支えた。軍事資金は、紀伊半島の中央構造線上に豊富に産出した辰砂（水銀朱）であった。水銀朱は、錬金用・朱塗りの魔除け・薬などに利用された。櫛田川や紀ノ川の水運を通して流通した。また、丹生で朝廷や摂関家・伊勢神宮に帰属する人々が活発に採掘・交易し、全国唯一の「水銀座」が形成された。その後の戦国時代には、水銀を原料とした化粧品の「伊勢白粉」が現在の松阪市射和で盛んに生産され、伊勢神宮の御師らによって全国に頒布された。丹生産の辰砂は縄文時代以降、朱・水銀・白粉などとして全国各地に知られ、三重を代表する鉱物だった。

丹生水銀山跡



辰砂



2.丹生一族

丹生氏は、渡来系の一族ともいわれ、「丹生」すなわち水銀の鉱床の発見と採掘や精錬術に長けた氏族に丹生一族があり、とくに西日本地域で、「丹生」という名前のつく土地や川や山や神社のある地方には丹生一族が展開していた。

空海が高野山開創の折に多大なサポートを受けたことで有名な一族で、今もなお和歌山県かつらぎ町天野の丹生都比売神社に存続している丹生氏はその総称または象徴といえる。

3.中央構造線上の道

修験者のネットワークは、中央構造線に沿って大峰山から伊勢、三河の鳳来寺山・遠州の秋葉山、信州の諏訪大社を結ぶ線は、修験道の修行コースであった。このルートでは、大峰山「陀羅尼助」、伊勢「萬金丹」、御岳「百草丸」など修験者の活動拠点で同様の丸薬が伝えられている。修験者は生活に必要なものを山から調達しており、薬草はその一端であった。

近世における紀伊半島の中央構造線上のルートは、和歌山街道（伊勢南街道）と称し、紀州徳川家の伊勢への道として、西に位置する本城和歌山と東にある領地松阪・田丸を結ぶ連絡道として藩の全力を挙げて整備した街道である。参宮でお伊勢参りを済ませた旅人にも、西国巡礼や高野参詣のために高野・吉野へ向け直行するルートとしても利用されていた。

丹生大師 火渡り神事



4. 真言密教

高野山

空海（弘法大師）が開いた真言密教の総本山、金剛峰寺があり、この**高野山にも水銀の鉱脈が存在**する。この辰砂は朱色の顔料である「**丹（たん）**」となる。空海自身、各地で土木工事に携わっていた伝承が残っており、かなり高度で専門的な知識を持った技術者でもあったと考えられる。**辰砂は仏教世界にも関係する鉱物で、空海が開いた四国88ヶ所の霊場が辰砂の産地に点在**している事も知られている。又、辰砂は昔より仏像に金を塗りこめる時にも使用されており、顔料として利用された事もある。空海に縁のある鉱物である。

神宮寺（丹生大師）

宝亀5年（774年）光仁天皇の勅願により勤操によって開創された。勤操大徳は空海の兄弟子とされている僧である。**真言宗山階派の寺院**山号は丹生山。女人高野山丹生山神宮寺成就院と号する。通称丹生大師。丹生神社の神宮寺である。

丹生大師境内



仁王像



■中央構造線と多気町内の街道

(熊野街道：伊勢神宮から熊野参詣へ)

町内を中央構造線が東西に横断、この地質・地形の変化に沿って主要な街道「伊勢本街道・和歌山別街道・熊野街道」が東西に整備された。成川地区の熊野街道沿いからは、**中央構造線による地形の変化である山並みの直線が確認できる。**



※熊野街道より柝ヶ池を望む。山側が中央構造線をはさみ西南日本内帯・池側が西南日本外帯。

熊野街道は、伊勢神宮から熊野詣・西国巡礼へ向かう巡礼の道（熊野古道伊勢路）。町内には巡礼道を示す道標や石仏（※如意輪観音像）が残り、なかでも女鬼峠は**伊勢路における最初の峠**。※如意輪観音は西国巡礼1番札所の青岸渡寺の本尊。

峠の麓、相鹿瀬地区には伊勢神宮の神宮寺の記録をもつ大神宮寺逢鹿瀬寺跡があり、この地と伊勢神宮との繋がりを示している。『三重県教育委員会編熊野街道』より



女鬼峠には、明治時代に荷車を通るために整備された生活道の明治道と近世に熊野詣・西国巡礼に使われた江戸道の2つの道が残されており、近世から近代への変化を感じることができる峠道。『令和5年度多気町教育委員会測量調査』より

■命をはぐくむ「氣」が多いまち

多 氣

食糧の多かれ

「多氣町は、地理的に多氣郡の中央に位置し、かつて郡性廃止までは、郡役所の所在地であった
伊勢大神宮に関係した御厨・御園が多氣町に数多く存在していたことが諸書に記されている。『多氣町史 通史（平成4年）』より



昭和30年5月20日の「多氣町弘報」第二号に住民が寄せた「多氣と云ふ新町名に就いて」という一文には、「多氣と云ふ言葉は**食糧の多かれ**と念願する祈語である」という一つの説が提示されている。『多氣町広報 第二号（昭和30年5月20日）』より



「米」は従者などの食糧。「氣」は「气」と「米」と二つの要素から成り立ち、「米」が字義を表し、「气」が字音で読み方を示す。『三省堂一語の辞典』より

1946年から49年にかけて、文化庁主導で当用漢字で「氣」が「氣」に変更された経緯は、「読み書きを平易にする」という実務的な理由。現在でも人名漢字として「氣」は使用可能。

豊富な食べ物と命を育むエネルギーがある町 多氣町 ・ 多氣町

■商工業発祥の地（三井家のルーツ～数々の創業者輩出）

〈三井家のルーツ〉 殊更－三井家「商いの祖」

三井家の家祖、三井高利の母殊法は1590年多気町丹生の大商家・永井家で生まれた。

夫の高俊は商売に熱心ではなく、もっぱら連歌や俳諧などの趣味に興じるばかりだったため、店を切り盛りし、実質的に越後屋を支えていたのが妻の殊法であった。殊法の実家、永井氏が丹生で金融業を営んでいたことから、殊法は優れた商売感覚を持ち合わせていたと言われてる。

殊法は、高俊との間に4男4女をもうけている。息子らは幼いときから日々の殊法の仕事ぶりを身近に見てきたせいか、いずれも商人の道を志してたくましく育った。

特に、高利が後に類い稀な商才を発揮したのは、末っ子であったために殊法が商人として最も輝いていた時期を長く見て育ったことも理由のひとつだろう。

三井広報委員会 「三井と女性たちの活躍（前編）」より抜粋

没したのは1676年。息子らの商売の成功、三井家の発展という喜びに満たされ、87歳で人生を終えた。**殊法は三井家「商いの祖」と呼ばれている。**



永井家旧蹟地に立つ記念碑（丹生区）



永井家墓石（丹生区）

※いずれも三井家により建立

〈数々の創業者輩出の地〉



井村和蔵様は多気町車川地区のご出身で、「井村屋の誕生は、明治時代の中期にさかのぼる。日清戦争が終わり、下関条約が調印されて勝利の余韻がさめやらぬ1896年、井村和蔵によって菓子舗「井村屋」が三重県飯南郡松阪町(現在の松阪市中町)で開業した。」

(井村屋グループ株式会社様HPより抜粋)

井村屋株式会社 創業者 井村和蔵様



吉田雄市様は多気町三疋田地区のご出身で、「自分は多気に生まれたこと、三重県に生まれたこと、日本に生まれたことに感謝している。若いころ地元で育ててもらったから今の自分があり、会社が成功したのもそのおかげだった。だから地元で、少しでも恩返しをしたい。」との思いから、平成7年6月に吉田福祉基金を設立、以降地域福祉の向上に大きく寄与されています。

(一般財団法人吉田福祉基金様HPより抜粋)

東和薬品株式会社 創業者 吉田雄市様

II. 検討テーマ：地質・科学

- VISONは中央構造線上に存在し、伊勢神宮からも近く、国内では他にも有力な神社が中央構造線上に存在する。
- VISON敷地内のある地点で「磁場」に関わりが深いと思われる現象が報告されており、1) 「磁場」に関する特異性があるかどうか 2) 中央構造線と磁場の関係について、検討・考察を行う。

※上記検討に際しては、磁場の科学的な計測を試みると共に、1) 科学 2) 山岳信仰・民俗学 3) 人体と磁力の観点から複合的にアプローチを試みる。

論点・考察

■中央構造線が走る町

中央構造線と地質、地形、主要神社、磁力の関係について多角的に考察する。

■水銀と磁性・鉱物・岩石・磁性

歴史的に多気町丹生は日本有数の水銀（丹生）の産地として栄えた。

■人体と磁力：エビデンス

II. 検討テーマ：地質・科学 ～磁場へのアプローチ～

1) 科学

簡易調査の結果表示 →次ページ参照

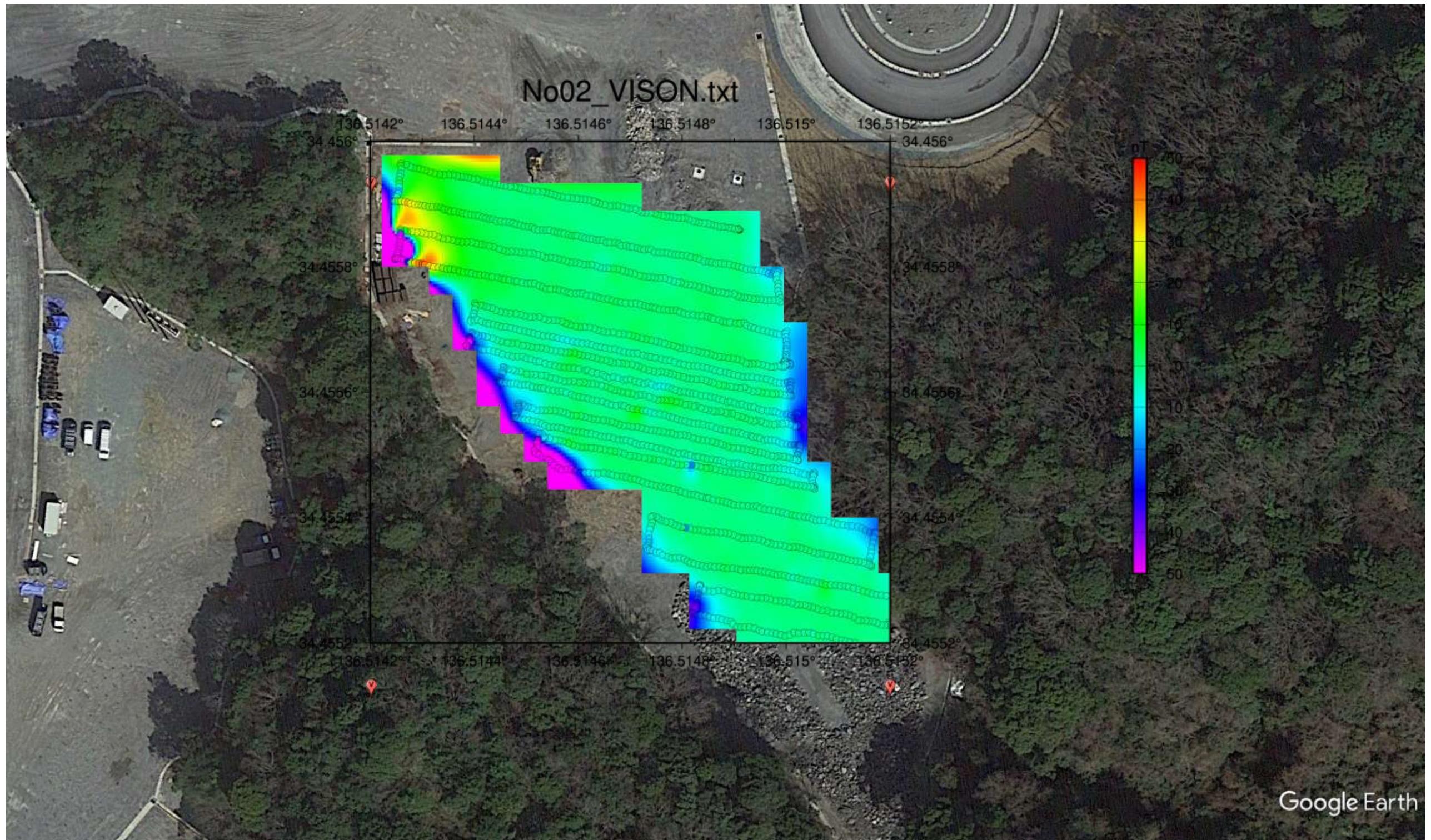
磁場の簡易調査のデータは、オーバーハウザー磁力計2台を使って、1台は固定(参照点)、もう1台を持ち歩いて面的な観測を実施。町・VISONの複数個所を計測することができた。かなり表層に近い部分の、鉄製の埋設物や鉱物のローカルな分布を捉え、中には大きな鉄の塊の存在が推定される、磁性がある場合の典型的な分布も確認できた。

2) 山岳信仰・民俗学

有識者等の主なコメントを踏まえたチームとしての初期見解

- 世に言われる「ゼロ磁場」は、鉄が磁力線を集め地球の磁場を曲げるため、正確には「磁気異常」といい、科学的な意味でのゼロ磁場とは異なる。
- 文献調査により、ゼロ磁場の定義、ゼロ磁場がなぜ「気＝氣」がいいのか（現象的には疲れやストレスを取り除くマイナスイオンが多いという仮説といった点についての言及も見つかった。）

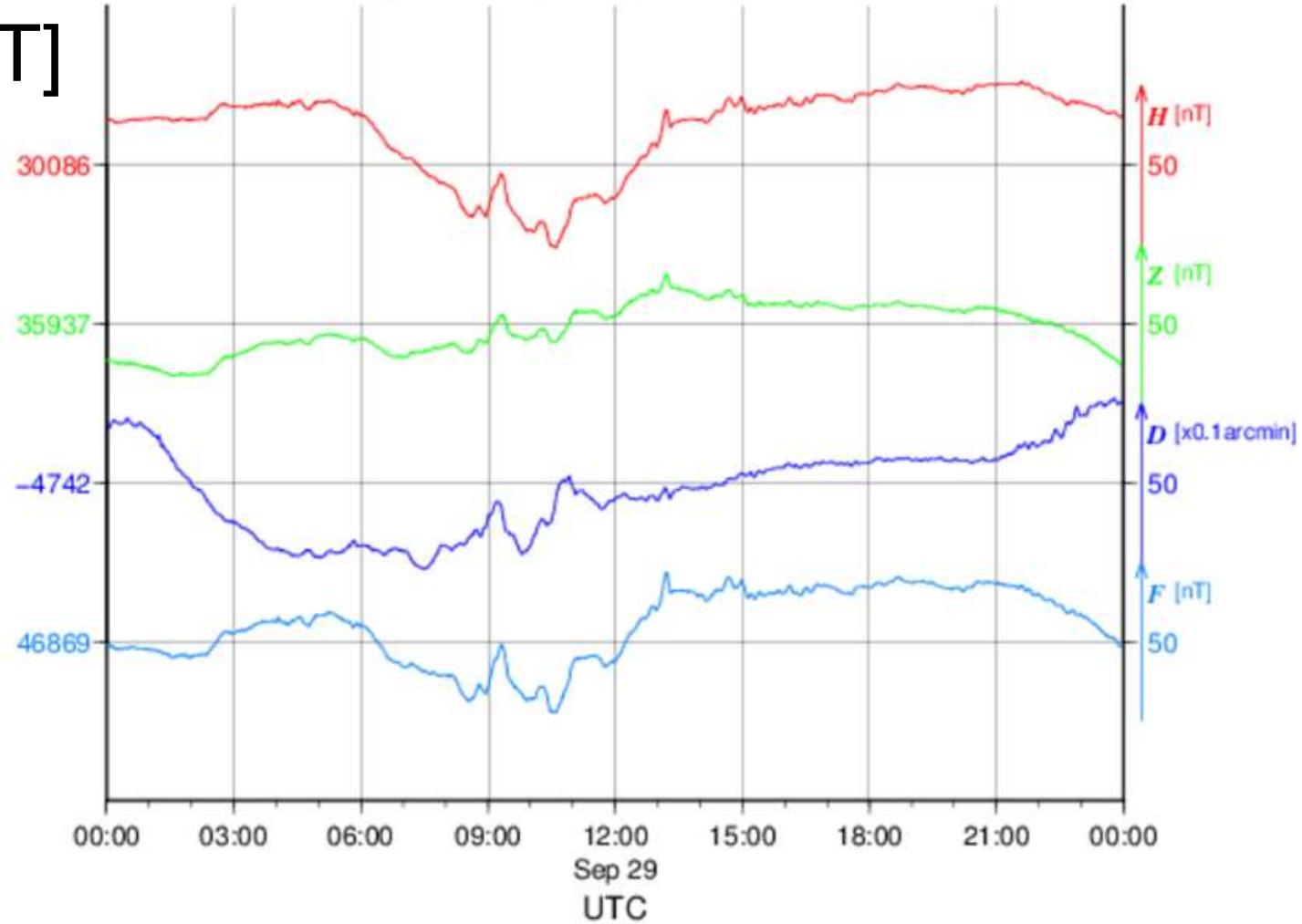
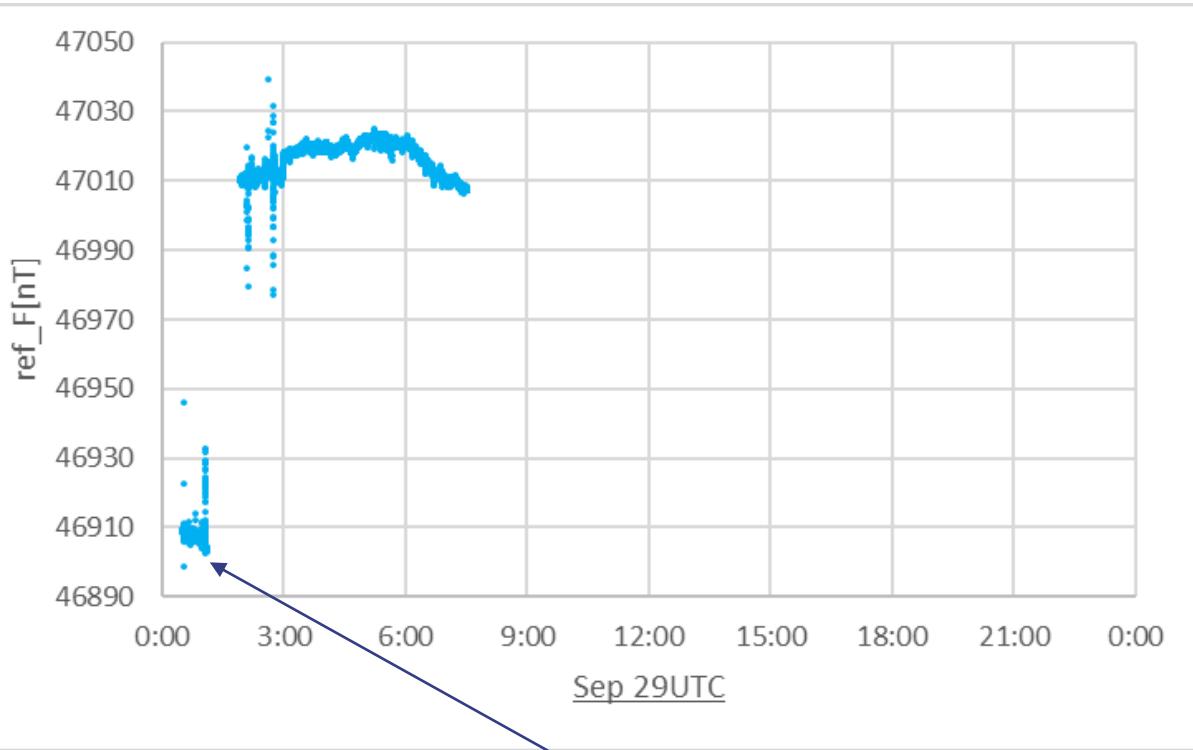
磁気調査データ (VISON地内) 9月29日実施



観測データの時系列図

計測期間 29日00:31-07:31[UT]

KAKIOKA
2023/09/29 Provisional Geomagnetic Data (1-min) - Normal -



Kakioka Magnetic Observatory

参照点OHを丹生大師→VISONへ移設
地点差によるギャップ

| | H | Z | D | F |
|-----|----------|----------|----------|----------|
| max | 30112.30 | 35952.60 | -4715.50 | 46890.60 |
| min | 30059.90 | 35920.60 | -4769.20 | 46846.60 |

<https://www.kakioka-jma.go.jp/cgi-bin/plot/plotNN.pl>

最終報告 II. 地質・科学 ～磁場へのアプローチ～

3) 人体と磁力

有識者等の主なコメントを踏まえたチームとしての初期見解

- 磁場の影響は様々な見解があり、明確な効果・作用・影響は出ているとは言いづらい状況
- 何らかの影響(作用)はある（神経伝達へ採用や原子レベルでの動きなど）ようだが、体感できる(効果が出る)とは限らない
- 磁場の影響も人によって許容範囲（緩衝範囲）などがあることが考えられ、磁場の影響を最小限に抑えるべく、磁場の振れ幅に対し、人間の体が勝手に「補正」したりしていると考えられる。そのため、ゼロ磁場になった場合は、その補正が必要なくなるため、身体の負担が軽くなる可能性はあり、長時間過ごすことで体感できる変化も出るかもしれない。ただ、いずれも個体差（個人差）は大きいと思われる。

今後に向けて（最終提言）

◎本調査を通じて、多気町・VISONが大切にすべき地域資源は以下のコンセプトで総括することができる。

「道」：中央構造線と熊野古道が走る町

「氣」：歴史的にも「食糧の多いこと」を祈念する「氣」であったという説が有力で字義的にも「氣が」本来の趣旨に近い。食がテーマのVISONとも親和性が高い。

◎アプローチとしては、「中央構造線×歴史×商業」がこの地域の特筆すべき強みである。

文献で確認できるだけでも7世紀に遡る町の歴史、伊勢神宮との関係熊野古道が通り、古くから人の往来が盛ん。実用的に価値の高い水銀の一大生産地として商業的にも栄える基盤。傑出した実業家の輩出。

◎具体的な施策に向けた提言（案）

町に点在する一級の歴史資産、特に「中央構造線×歴史×商業」に関する資産の保存と有効活用（丹生神社・佐那神社一帯、油田醸造、近長谷寺など）

「氣」の通称での使用（町・VISON共）

◎人体と磁場の関係性は、さらなる調査検討が必要

- ・ゼロ磁場＝磁場の弱さ、磁場が弱いことの人体への影響（睡眠など）の二つの説明・証明が必要
- ・中央構造線 - 磁場 - 人体の関係は科学的にも複数のアプローチがあり、この三点の相関関係については、まだ深堀調査が必要

多気町とVISONとバスク州サンセバスチャン市の交流

多気町とバスク州サンセバスチャン市は2017年1月に美食を通じた友好の証を締結しました。これも町名や州マークに『同じ文字』が存在することや『食』というキーワードにご縁を感じています。

美食を通じた友好の証

美食の町スペイン国バスク地方サン・セバスティアン市と美食の町を目指す日本国三重県多気町は、食を通じた友好関係をさらに推進するため友好の証を締結する。両市町およびその市町民は、食に関する文化、教育、経済などの分野での交流を通じて、さらなる発展と互いの理解と連携を深めることに努めるものとする。本友好の証は、日本語及びスペイン語を等しく正文とし署名の日から効力を生ずる。

2017年1月13日 サン・セバスティアン市庁舎にて

Tratado de amistad mediante la Gastronomía

La ciudad gastronómica de San Sebastián en el País Vasco y el pueblo que aspira a convertirse en un lugar gastronómico, pueblo de Taki en la prefectura de Mie en Japón están preparando un acuerdo de amistad con la finalidad de promover aún más la amistad a través de la gastronomía.

Ambos lugares y sus ciudadanos van a esforzarse aún más en desarrollar y profundizar la comprensión mutua mediante la utilización de intercambios de cultura, educación y economía relacionados con la gastronomía

Este acuerdo de amistad entre Japoneses y Españoles es auténtico y tendrá efecto desde el día 13 de Enero del 2017 cuando sera firmado en el palacio municipal de San Sebastián por el Alcalde de la ciudad de San Sebastián del País Vasco y el Alcalde Yukio Kubo de el pueblo de Taki, Distrito Taki, prefectura de Mie.

Alcalde

Ciudad de San Sebastián

Alcalde

Ciudad de Taki

